

中国を見て・感じて・探る…大連事務所発のレポート

大連のネットニュース「天健ネット」より

大連:2009年海外旅行人口、初めて100万人突破

2009年大連に訪れた海外の旅行客は初めて100万の大台を突破、105万人に上った。昨年比10.5パーセント増。国外での旅行誘致の面では大連は8度にわたる国際的な観光キャンペーンに参加、外国における説明会を開催するといった広報キャンペーンを50回以上開催してきた。海外の旅行客を扱う50以上の旅行会社やメディア等の団体が来連しツアーでのルートを検討。年を通じて国際客船の寄港15回、チャーター便が75回、特別列車が6回来連している。日本、ロシア、アメリカ、カナダなどからの旅行客が10パーセント以上増。これは「大連日報」が伝えた。

訪日中国人観光客、100万人超で史上最高

日本国際観光振興機構が発表したデータによりますと、2009年、日本を訪れた中国大陸の観光客は2008年より0.6%増え、のべ100万人を超え、史上最高に達しました。2009年、世界経済危機や新型インフルエンザの影響を受け、日本を訪れた外国人観光客がのべ679万人で、2008年より18.7%減しました。しかし、2009年7月日本政府が個人観光ビザの発行を始めたことを受け、中国大陸からの観光客が0.6%増加しました。日本のメディアは、日本政府がこれに先立って2010年の海外からの観光客を1000万人にする目標を打ち出しました。この目標を実現するため、日本は今後中国人観光客を増やすことに力を入れていこうとしています。

大連市は、金石灘リゾート地区など自然の観光資源に恵まれていて、美しい観光都市づくりにも力を入れてきた。旧跡や自然景観を見るのが中国人の観光旅行の一般的なパターンだが、近年の中国人富裕層の増加により、リゾート型の観光を好む人も年々増えている。

大連市には、ビーチあり、テーマパークあり、温泉あり、スキー場あり、ゴルフ場ありで、リゾート型観光客も十分満足させられる観光地となっている。ある意味、万里の長城や桂林というような世界的な名所がない分、中国には珍しい新しいレジャー施設を建設することによって観光地としての魅力をアップしてきた。観光客による経済効果や観光産業の育成に、早くから着目し、街のイメージアップと経済発展に結び付けている。

大連市の 2008 年の社会発展統計では、
「国内旅客を計 3000 万人回接待し、昨年比に比べ 21%増加；海外旅客を 95 万人回接待し、13.1%増加した。旅行総収入を 400.8 億元実現し、23.3%増。その内、国内旅行収入が 355 億元で、26.1%増；旅行外貨収入は 6.58 億米ドルで、13.3%増。2008 年末まで、全市の旅行ホテル(飯店)を 212 軒有し、6 軒増えて、その内星クラスのホテルが 168 軒、；旅行社が 362 社、その内国際旅行社が 26 社。国家 A 級旅行区(観光施設)は 24 ヶ所あり、その内 5A 級が 1 ヶ所で、4A 級が 10 ヶ所」とある。

これからも、世界的なホテルチェーンによる高級ホテルなどの建設計画が4～5軒あり、観光客誘致やコンベンションの誘致・開催がさらに強化されるだろう。

反対に、大連市から海外へ旅行に行く観光客も増加している。まだ、日本への個人ビザは解禁されていないが、ここ1、2年の間には解禁されるものと予想されている。さらに、現在ネックとなっている個人ビザの所得制限も、現在見直しが検討されていると聞く。このような条件が整えば、日本への直行便が多い大連から、日本へ行く中国人観光客は飛躍的に増加するはずだ。

所得制限については、中国ならではの事情があり、個人ビザの申請は思ったよりも少ない。簡単に言えば、お金はあるが所得がない人がたくさんいるのだ。

昨年の夏、大連で最も当たった海外旅行は、韓国・済州島へのツアーだ。済州島に限って韓国政府がノービザでの入国を認めたことが大きな要因。カジノもある韓国のリゾートアイランドへ、大連市の富裕層がこぞって出かけた。

今、中国のテレビでは、盛んに韓国やマレーシアの観光 CM が流れている。日本もビザの解禁に合わせて、中国人観光客の誘致に力を入れるべきだ。大連市でもネット世代の若年層は、ほとんどが日本へ行ってみたいと思っている。